

先人の知恵から

16

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

諺を調べながら、同じような意味のものが多く感じる。それも世界共通である。人はどこの世界でも、どんな人種でも、同じような過ちを繰り返している。そして、先人たちが、同じ過ちを繰り返さないようにと諺や格言として伝えているのに、やはり繰り返してしまう。

人というのは愚かな生き物かも知れないが、だからこそ愛しいのだと改めて思う。今回は、か行から次の7つを挙げてみた。

- 彼方に良ければ此方の恨み
- 蟹は甲羅に似せて穴を掘る

- 壁に耳あり障子に目あり
- 果報は寝て待て
- 神様にも祝詞
- 亀の甲より年の劫
- 鴨の水掻き

〈彼方に良ければ此方の恨み〉

あちらの人に良いと思ってしたことが、こちらの人には恨みのもとになる。どちらの人にも良くすることは難しいということ。「あちらを立てればこちらが立たぬ」も同義語。

この諺は家族間のことで度々使っている。例えば、嫁姑問題。夫が嫁と姑の間に挟まって困っているという話はよくある。どっちを立ててももめる種になる。どちらか一方の味方にならなければならないから問題になる。かといって、関わりたくないと思えば逃げたで、また攻められる。一体どうすれば良いのかと相談に来る。

女子の友人関係で度々起こる三人の問題も同様の時がある。ABC 三人がいて、誰かが間に挟まる形で揉める。間に挟まった子は、どっちの味方になっても、ならなくても一方或いは双方から攻められてしまう。このような時にこの諺を使って説明し、本人の行動選択を支持する。

また、あること（犯罪などは別だが）が、誰にでも良い、或いは悪いということもない。例えば誕生日にケーキというのはつきものだが、ケーキが嫌いな人に誕生日だからとケーキを持っていけば、喜んではもらえないだろう。ケーキではなく、お祝いに花束を持っていったら、ケーキのほうが良かったという人もいるかもしれない。

人はそれぞれである。そんなことを伝えたいときにもこの諺を使う。

<蟹は甲羅に似せて穴を掘る>

人は自分の身分や力量に応じた言動をするものだということのたとえ。

自分自身にも言い聞かせている諺でもある。

世の中カードが普及し、誰もが何枚ものカードを持っている。ポイントをためたり

と、カードは便利である。しかしカードローンは曲者である。ついつい買い過ぎてしまったり、一回一回の支払いは少しだからと高価なものを買ってしまう。欲を言えばきりがない。ほしいものは山のようにあるという人も多いただろう。中々分相応になりにくいのではと思う。

物だけではなく、将来の夢についても、小さい子ならいざ知らず、中学生や高校生になっても勇者になりたいなどと実現不可能な夢を語っている子もいる。夢をあきらめないことも大切だが、現実離れた夢を持っていても、結局叶わない。そして叶わないことを嘆いていても前には進めない。

そういう意味でも、分相応というのは大事なのである。蟹にとって穴は、大きすぎても都合が悪いし、小さすぎたら入れない。丁度良い大きさの穴を掘ることが求められる。我々人間も、身の丈に合った生活を目指すことがまずは大事だろう。そのうえで、更に上を目指し、大きく成長していけばよい。

英語では・・・

Cut your coat according to your cloth.
(布に応じて衣服を裁て)

<壁に耳あり障子に目あり>

隠し事はとかく漏れやすいから、注意せよといういましめ。こっそり話しているつもりでも、誰かが壁に耳を付けて聴いているかもしれないし、誰かが障子に穴をあけてのぞいているかもしれないという意から。「天に口あり地に耳あり」や「石に耳」なども同義語。

誰もが知っていると思うこの諺も、最近の子どもたちは聞いたこともないという。子どもたちはちょくちょく嘘をつく。大人も同様だが、人の悪口を言ったりもするし、「此处だけの話」が守られる事の方が珍しい。噂話も程ほどにしないと、痛い目に遭うし、嘘や隠し事はいずればれてしまうものだという事を、この諺は良くあらわしていると思う。

英語では・・・
Walls have ears.
(壁には耳がある)

Catherine Fisher の著書「インカーセロン」では Walls have ears. Doors have eyes. Trees have voices. … と続く。

<果報は寝て待て>

幸運は自分の力で求めようとして得られるものではないから、焦らずに運が向いてくるのを待つのが良いということのたとえ。「運は寝て待て」あるいは「福は寝て待て」ともいう。「待てば海路の日和あり」は同義語。

相談業務をしていると、本当にいろいろな事が悪い方に悪い方に行っている人に出会う事がある。あれをやってみても、これをやってみても、どうも上手く回らない。何かをするとその結果悪い事ばかりが起る。人生にはそういうこともたまにはあるものだ。そんなときは、ジタバタして事を余計に悪くしてしまうより、時の流れを静

かに待つのも良い。静かに待っているうちに良い方に物事が回転していく、そんな経験をした事がある人も居るだろう。そんな経験談から作られた諺は、説得力もあると思う。

ただ、何の努力もせずに、ただ待っていれば良いと言う、だらしなさにしてしまうのは良くないので、使う相手を選ぶことは大切であろう。

英語では・・・
There is luck in leisure
(好運は暇な時にある)

<神様にも祝詞>

わかっていることでも、黙っていては通じないから、口に出して言った方が良いということのたとえ。神様でも、お祈りの言葉を言わなければ、願いごとが通じないという意から。

親子や友達同士、恋人同士、夫婦、様々な関係性の中で、はっきり言葉で表しめせず、気持ちを理解してくれないとか、行動してくれないなどと訴える人にたくさん会う。

言わなくても伝わる「阿吽あうんの呼吸」という言葉もあるが、一般的には言わないで思いがすべて伝わるなどということは殆どない。「もっと口に出して言おう」と伝えたいときにこの諺を使っている。察してくれない、わかってくれないと嘆く前に、きちんと思いを伝えているかを確認する必要がある。

<亀の甲より年の劫>

年長者の豊富な人生経験や知恵は、尊重しなければならないというたとえ。

単に「年の功」と言う事もある。色々な経験をした人の話からは学びも多い。人の人生には、多かれ少なかれ同じような経験と言うのはあるものだ。年長者の言う事は、今の時代に合わないと、聴こうとしない人が居るが、ただ歳を取ったからと言う事ではなく、それなりに色々な経験をした人の話は聞くべきだろう。時代・歴史は繰り返される。人生における出来事も同様であると分るのは、きっと年齢が上がってからの感覚なのかもしれない。人それぞれではあるが、人生経験を積むことで、先達として伝えられものを沢山もてるような人生を送りたいものだ。

英語では・・・

Age and experience teach wisdom.

(年齢と経験が英知を教える)

<鴨の水掻き>

よそ目にはわからないが、人にはそれぞれ人知れぬ苦勞や心配があることのとえ。鴨はのんびりと水に浮いているようにみえるが、水面下では絶えず足で水を掻いていることから。

他人を見て羨む人に時々会う。「何である人は大して頑張っても居ないのに評価されるのか」と。しかし、人には見えない努力や気遣いをしている人は山のようにいる。そんな事を伝えるのに丁度良い諺がこれではないか。

頑張っている人に限って「頑張っている」ことをあえて言わない。勉強を毎日夜遅くまでやっている子が、学校では「全然勉強してない」と言って隠している。それには、日本人の特性として、見えない努力をよしとするところがあるので、その影響もあるだろう。

身体を鍛えたり、肌のお手入れをしたり、呆けないように何かを学んだりなど、歳をとってもカクシャクとしている人は、それなりに努力をしている。そんな事も「鴨の水かき」だろう。